

研究 主題	児童一人一人が、伝え合う楽しさを味わうことのできる授業を目指して —話型や友達のモデルを手掛かりとした「話すこと・聞くこと」の授業づくりを通して—
----------	--

第2学年国語科学習指導案

指導月日 令和4年10月17日

所属校名 多賀城市立多賀城小学校

氏名 教諭 岡本 綾子

1 単元名「話をつないで うれしくなることばをあつめよう」

2 単元の目標

- (1) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。
〔知識及び技能〕(1) ア
- (2) 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕A(1) オ
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

3 単元で取り上げる言語活動と教材

言語活動：人から言われてうれしかった言葉について少人数で話し合う。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕A(2) イ)

教材：「うれしくなることばをあつめよう」（東京書籍 新しい国語2）

4 単元観

本単元は、小学校学習指導要領国語科第2学年における〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」の(1)オ「互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと」に重点を置く指導事項として設定したものである。

児童は、第1学年までに、一対一で、互いの話をよく聞いて質問したり応答したりして、話を楽しくつなぐことを学習している。また、第2学年になり、聞き手に分かりやすく事柄を順序立てて話したり、大事なことを落とさずに集中して話を聞いたりすることも学習してきている。それらの経験を踏まえ、本単元では、少人数のグループで話し合う活動を通して、関心を持って互いの話を聞き、相手の発言を受けて話すことで話をつなぐ力を身に付けさせたい。互いの話に関心を持ち、自分にも似たような思いを持ったことがないかを考えながら聞くことで、相手の話に共感を示したり、質問したりしながら話し合うことができるようにしたい。また、そのために重要なのが〔知識及び技能〕の(1)ア「言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと」である。本単元では人から言われてうれしかった言葉について話し合うという活動を設定しているが、言葉には経験したことだけでなく、そのときの気持ちなども伝える働きがあるということに気付かせたい。

5 児童の実態〔第2学年2組 27名〕

- (1) 全体的に、友達の話共感的に聞こうとする雰囲気がある。身近な話や気になった話については、内容をよく捉え、感想を伝えることができる。しかし、自分の生活経験から離れた話になると聞き逃しが多く、話の中心が捉えられない児童が多い。また、友達の考えと自分の考えを比べながら聞くことはまだ難しい。聴覚情報だけでは理解が進まないことが多いので、話の要点を図にしたり、文字に起こしたりしながら、内容理解を促すようにしている。
- (2) 児童はこれまでに、「好きなこと、なあに」の単元を通して、互いの話に関心を持ち、相手の発言を

受けて話をつなぐことを学習している。一対一で話すことを通して、話を聞くときには、話し手の顔を見てうなずきながら聞くとよいことに気付くことができた。また、相手の話を聞いて質問をし、話をつなげようとする意欲が見られるとともに、質問に対して適切に答えようとする態度が見られた。一方で、質問の内容がパターン化して、どの話し手に対しても同じ質問をする児童が一定数いた。また、相手の話を受けて、聞いた言葉を繰り返すことで、相手の話に共感を示すことはまだ定着していない。

6 指導観

本単元では、人から言われてうれしかった言葉を話題として3人グループで話し合うという言語活動を設定した。言語活動を通して、話をつなぐには、どのように聞いたり話したりするとよいか考えることができるように指導していく。

まず、学習の見通しを持たせる段階では、教師が話のつなぎ役になって、学級全体で人から言われてうれしかった言葉を集める話合いを行う。その際には、質問だけでなく、共感を示す反応や児童と児童の発言を結び付ける言葉を意識的に用いて、児童に話合いのイメージを持たせていく。

次に、どのようにして話をつなぐかを考える段階では、実際に話し合う活動と振り返りを繰り返し行うことで、話をつなぐ工夫を生かした経験を重ねていくようにする。話合いの前には、自分の目標を設定する時間を作る。話をつなぐ役割をする「受け止め（～がうれしかったんだね、など）」「質問（いつ、だれに、など）」「結び付け（わたしも、にたようなことがあって～、など）」の三つの観点を意識させることで、何に気を付けて話合いができたかを振り返ることができるようにしていく。また、学級全体の振り返りの際には、どのように話せばよいかだけでなく、どのように聞けばよいかを考えさせたい。加えて机間指導の際には、発言している言葉や内容だけでなく、表情やうなずきなどの非言語コミュニケーションの良さを認めるフィードバックを心掛ける。そうすることで、相手の伝えたい事柄を集中して聞いたり、自分の経験と比べたりすることができるようになると思う。

指導時期は、2学期の初めに当たる。うれしくなる言葉について友達と話し合うことは、新しい学期を迎えて学級をよりよくしたいという児童の意欲に重なると思う。本単元では、うれしかった言葉についてグループで話し合い、クラスがより仲良くなるために生かすという意識を持たせ、多くの意見を共有し、自分の視野を広げることができる話合いの良さを実感させたい。

7 研究主題との関連

(1) 研究主題 児童一人一人が、伝え合う楽しさを味わうことのできる授業を目指して

一話型や友達のモデルを手掛かりとした「話すこと・聞くこと」の授業づくりを通して一

(2) 授業づくりに関わる課題

話し方や聞き方の個人差が大きく、学習内容が定着していない児童が多い。このことに関して、考えられる理由は以下のとおりである。

① 指導事項を児童にとって分かりやすい表現で示し、めあてとして意識させられていないため、学習活動の焦点化を図ることができていない。

② 学習の振り返りの観点や方法が具体的でなかったり、一部の発表力のある児童の感想発表にとどまっていたりしている。児童一人一人が話し方や聞き方を振り返って、「こう話せば分かりやすそうだ」「次は何に気を付けて聞けばよいか」などと、学習を調整する力を付ける指導が不十分である。

(3) 課題解決のための具体的な手立て

① 話型を活用した伝え合いと振り返り

教科書の例文を基に、話型をつくる活動を行うことで、指導事項を理解させる。話型を使ってできた、話型に付け加えてできた、と自己評価させたり、友達と活動を見合わせたりするときの観点

にする。また、話型から徐々に離れて話し合うことができるように、付け足した言葉を全体で共有していく。

- ② 1単位時間の中間に互いの話し方や聞き方を見合う活動を取り入れた学習過程
児童自身の話し方や聞き方と比べさせ、次の活動で自分が更に工夫できそうな点を明らかにさせることで、相手を意識した話し方や聞き方の工夫につなげていく。

8 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア	①「話すこと・聞くこと」において、互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつないでいる。A(1)オ	①これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、進んで互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぎながら、学習課題に沿って少人数で話し合おうとしている。

(2) 単元の全体計画（8時間扱い 本時5／8）

時	主な学習活動	評価規準・評価方法
1	○これまでの学習を振り返り、単元の学習の見通しを立てる。 ・言われてうれしかった言葉について、これまでの経験を振り返る。 ・「好きなことなあに」の学習を思い出し、言葉をつないで話し合うという課題を確かめる。	
2	○話合いのイメージを持つ。 ・教師とともに、学級全体でうれしかった言葉について話し合う。 ・教師や友達の反応を確かめながら、「受け止め」「質問」「結び付け」の話のつなぎ方のイメージを持つ。	【知識・技能①】 カード、発言 ・うれしかったことを表す言葉や話をつなぐための言葉の活用状況の確認。
3	○うれしかった言葉を書き出す。 ・いつ、どんな場面での出来事か、言われたときにどのような気持ちになったのかを思い出しながら、カードに書く。	
4	○話をつなぐための話し方、聞き方について考える。 ・話をつないでペアで話し合う。 ・話をつなぐために大切なことや使うとよい言葉について共有し、話型をつくる。	【思考・判断・表現①】 ノート、発言、行動観察 ・話のつなぎ方の工夫とその理由の確認。
5 (本時)	○3人グループで、これまでに言われてうれしかった言葉について話し合う。 ・話型や教科書の例文を参考にしながら、「受け止め」「質問」「結び付け」を意識して、話し合う。 ・他グループと話合いの様子を見合い、話をつなぐために大切なことを考える。	

6	○聞き方や反応の仕方を全体で確認し、第5時と同じ3人グループで話し合う。 ・第5時で得た気づきを基に、聞き方や反応の仕方を全体で共有する。 ・話をつなぐときに工夫したことを話型に付け加える。	【主体的に学習に取り組む態度①】 発言，行動観察 ・学習したことを踏まえて、自分の聞き方や反応の仕方を見直している様子の確認。
7	○いろいろな3人グループを作って話し合う。 ・どのような点に意識して話し合うのか、自分の目標を書いてから話し合う。 ・教科書の例文や話型を手元に置かずに話し合う。 ・話合いを振り返り、話をつなぐために気を付けたことを書く。	【思考・判断・表現①】 ノート，発言，行動観察 ・話をつなぐための目標設定の理由と振り返りの記述の確認。
8	○単元の学習を振り返る。 ・話合いをして気付いたことや、話し合ってよかったと思ったことを伝え合う。 ・学習したことをどのように生かしていきたいか、確かめる。	【主体的に学習に取り組む態度①】 ノート，発言 ・自分や友達の話のつなぎ方を振り返っている様子の確認。

9 本時の計画

(1) 目標

話をつなぐために大切な受け止めや質問の仕方について考えることができる。

(2) 本時の指導に当たって

本時は、特に次の二つの手立てを工夫して指導する。

① 話型を活用した伝え合いと振り返り

「受け止め」「質問」「結び付け」を伝える言葉と言葉の働きが視覚的に分かりやすくなるような話型にしていく。そうすることで、自分が話のつなぎ方のどこに気を付けたのか、何ができるようになったのかを振り返ることができるようにしていく。

② 1単位時間の中間に互いの話し方や聞き方を見合う活動を取り入れた学習過程

他のグループと話合いの様子を見合う場面を設定する。話合いの当事者以外の立場で見ること、友達の話のつなぎ方の良さを見付け、自分の話し方に取り入れることができるようにしていく。話をつなぐためには、質問だけでなく、相手の言葉を繰り返して返す受け止めや、自分の経験と結び付けて相手の反応を引き出すことも大切であることに気付かせ、2回目の話合いに生かすように働き掛ける。また、自分だったらどのように話をつなぐか考えながら聞くことで、友達の話のどこに集中して聞けばよいのか、意識することができるようにしていく。

(3) 指導過程

段階	学習活動 ・予想される児童の反応	指導 形態	○指導上の留意点 ＜ ＞研究主題との関連	評価
導入 3分	1 本時のめあてを確かめる。	一斉	○「受け止め」「質問」「結び付け」を表す言葉を振り返り、学習課題を捉えさせる。 ○話合いの様子を互いに見合うという本時の学習の見通しを持たせる。	
	話のつなぎ方に気を付けて、話合いをしよう。			

展開 37分	2 3人グループの話し合いを別の3人グループが見る活動を互に行う。 ・「どんなときに」を質問するようにしよう。 ・「〇〇がうれしかったんだね」と言うと、相手が伝わった安心感が持てそうだな。 ・自分にも似ている経験があったら、それを伝えるようにしよう。 ・友達の言葉を繰り返して返せるように、気を付けて聞くようにしよう。	3人 グループ	＜手立て②：1単位時間の中に互いの話し方や聞き方を見合う活動を取り入れた学習過程＞ ○友達が「受け止め」「質問」「結び付け」のどれを用いて話をつないでいるのか、意識して見るように働き掛ける。特に、「受け止め」と「結び付け」をどのように行っているのか着目させることで、どのような発言をするかだけでなく、どのように友達の話を聞けばよいのか考えることも大切であることに気付くことができるようにしていく。 ○各グループが交互に話し合いをし、話し合いが終わるごとに良かった点について伝え合うようにする。話し合いをしていた側、見ていた側の双方から感想を伝えることで、どんな言葉で話をつないでいたか、その言葉にはどのような効果があったか意識できるようにしていく。	発言 行動観察 【思①】
	3 話し合いで気付いたことを全体で共有し、課題を明らかにする。 ・どんな言葉を使えばよいかは分かるけれど、話の流れに合わせてつなぐのが難しい。 ・「受け止め」や「結び付け」で返してもらえると、話していて安心するから、もっとできるようになりたい。	一斉	○個人の感想では、「相手の話を聞いて質問できた」という振り返りが多いことが予想される。質問は、ある程度準備しておけるので安心して話をつなぐことができる良さがあることを認めるとともに、相手の話を広げる良さがあることを実感させたい。 ○一方で、自分の話に対して質問ばかりだったらどのような気持ちになるか問い掛け、「受け止め」や「結び付け」があると聞き手がどう感じているか話し手に伝わる良さがあることを気付かせる。 ○聞き手が心地よい受け止めをしていたり、似ている経験を伝えたりしているグループがあったら、全体で共有する。そのために、各グループの話し合いの様子をタブレットで録画しておく。	
	4 もう一度話し合う。 ・〇〇さんがやっていた、話の受け止め方をやってみよう。 ・自分の経験と比べながら聞くように気を付けよう。同じような経験があったら、伝えられるといいな。	3人 グループ	○人から言われてうれしかった言葉を発表する児童を変えて、同じ3人グループでもう一度話し合う。友達のフィードバックを受けて、もっと頑張りたいと思ったことを試すように促す。	ノート 【思①】

終末 5分	5 本時の活動を振り返る。 ・質問することばかり考えていたけれど、相手の話を受け止めてから話すようにしたら、話がつながった。	一斉	＜手立て①：話型を活用した伝え合いと振り返り＞ ○児童がどのような話をつなぐための言葉を使ったのかを確認し、児童ができるようになったことやこれからの課題を話型の中に構造化して示す。どんな言葉が話をつなぐときに役立ったか、その言葉を使ってどんな工夫をしたか、ノートに書かせる。
----------	---	----	--

(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準	十分満足できる(A)	努力を要する児童(C)への手立て
思考・ 判断・ 表現	「受け止め」「質問」「結び付け」を意識して話のつなぎ方の工夫を考えている。	相手の発言やグループの話合いの流れに沿って、「受け止め」「質問」「結び付け」を意識して話のつなぎ方の工夫を考えている。	・前もって考えていた質問をするように促す。 ・「なるほど。そうなんだ。」と繰り返すこともよい共感であることを伝える。

(5) 準備物

教師：話型（模造紙）、大型テレビ

児童：教科書、ノート、筆記用具、うれしくなる言葉カード、タブレット端末

(6) 板書計画

